

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	社会教育委員の会議開催事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和31年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	法定事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	企画立案への参画
予算科目コード	01-100401-04 単独	根拠法令・条例等	社会教育法 守谷市社会教育委員に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>社会教育法第15条に基づき、社会教育行政に広く各方面の良識と経験を反映させるために昭和31年度に設置した。</p>	<p>学校教育関係者や社会教育関係者、学識経験者、家庭教育の向上に資する活動を行う方及び公募市民で構成した社会教育委員の優れた知見、知識や経験を社会教育行政に反映させ、市民の社会教育活動の活性化、学校・地域・家庭の連携協力における社会教育の推進を図る。</p> <p>会議等の開催時には、出席委員に報酬及び費用弁償を支払う。</p> <p><主な議案・協議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育関係事業及び予算について ・放課後子ども総合プランの充実と在り方について <p><主な研修等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティアによる緑化保存（多世代交流） ・守谷市の放課後子ども総合プラン（学校・地域・家庭の連携）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>社会教育に関する計画の立案等を協議し、教育委員会に助言するとともに、社会教育の諸問題について課題を解決し、市民の社会教育活動の活性化につなげる。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>青少年健全育成や社会教育の諸問題について整理を行い、意見・提案等を求めたいが、委員が事業内容を把握し切れていないことがあり、会議上の議論だけではまとまらない。</p> <p>提言につなげるためには、委員が事業内容や現状を把握する必要がある。</p>	<p>平成30年1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「放課後子ども総合プランの充実と在り方」を教育委員会に提言 <p>平成30年2月中旬 勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣（北相馬地区）と合同研修「守谷市の放課後子ども総合プラン」及び意見交換 <p>平成30年3月末 全体会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の社会教育関係事業について（報告・意見交換） ・今後の活動について（建議・活動スケジュール等） <p>平成30年5月 小委員会</p> <p>平成30年7月 全体会議</p> <p>平成30年10月 小委員会</p> <p>平成30年11月 全体会議</p> <p>平成31年1月 全体会議</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>会議での議論だけではなく、現地視察や勉強会を通して、委員相互が意見交換を行い、年度末の全体会議で提言書の内容を決定する。</p>	

次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p><input checked="" type="checkbox"/> 増加</p> <p><input type="checkbox"/> 維持</p> <p><input type="checkbox"/> 削減</p>	<p>任期の最終年度に当たるため、提案・提言をまとめる必要がある。</p> <p>現在、年2回の会議により意見交換を行っているが、会議の他に、小委員会による提言書等まとめ作業が必要になるため、それに掛かる報酬及び費用弁償が増額となる。</p>

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
<p>青少年健全育成や社会教育の諸問題について整理を行い、提案・提言につなげるためには、委員が事業内容や現状を把握する必要がある。</p> <p>社会教育関係団体の構成員が委員となっているため、情報交換や情報共有を重ね、スポーツ・文化活動及び地域活動など様々な分野をつなぎ、社会教育の推進を図る必要がある。</p>	<p>外部評価を受け、社会教育委員の視点で、放課後子ども総合プランの充実と在り方について話し合い、提言書をまとめた。</p> <p>また、近隣市町と合同研修を行い、意見交換を行ったことにより事業の主旨、内容や現状を確認することができた。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
会議の開催回数（全体会議・研修会等）（回）	5.00	5.00	5.00	7.00	5.00
提案・提言件数（件）	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	<p>年2回の全体会議では、市が提案した議題について協議しているだけであるため、本質的な課題解決につながらないため、成果が停滞している。今後は、委員が建議し、多様な考え方や意見をまとめ、社会教育の活性化を図るための提言を行い、成果の向上を図る。</p>				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>任期の最終年度に当たるため、社会教育の諸問題について協議してきた提案・提言をまとめる。通常は、年2回の会議により意見交換を行っているが、会議の他に、小委員会による提言書等まとめ作業を行う。</p>			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	233	406	365	438	438
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	233	406	365	438	438
正職員人工数（時間数）		0.00	195.00	155.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	800	636	0	0
トータルコスト		233	1,206	1,001	438	438

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	社会教育指導員事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和48年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	
予算科目コード	01-100401-05 単独	根拠法令・条例等	守谷市社会教育指導員規則	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>昭和46年社会教育審議会の答申により、社会教育指導体制が弱体であるとし、文科省が47年度以降市町村に配置するようになり、守谷市も昭和48年度から配置に係る補助を受けて社会教育指導員を配置した。平成19年度以降、補助制度は廃止となったが、市独自の施策として社会教育指導員規則を制定し配置している。</p>	<p>社会教育指導員の事業は、家庭教育の推進が主な業務であり、家庭教育を学ぼうとする大人（保護者）に対して学習の機会、子育てに関する悩み等を解消するために家庭教育講座を開催する。</p>
<p>目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育活動の知識や経験のある社会教育指導員を配置し、家庭での子育てに関する悩みの解消、生涯学習・家庭教育に必要な知識、技能を学習してもらう。 ・放課後子ども総合プランがスムーズに運営できるよう推進する。 	
<p>（参考）基本事業の目指す姿</p> <p>市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での子育てに関する悩みの解消、生涯学習・家庭教育に必要な知識、技能を学習してもらうために、家庭教育講座・家庭教育講演会を開催しているが、講座の内容によって参加人数にバラつきがある。 ・講座によっては、未就学児がいる参加者が多い場合もあるので、常に託児所を開設できるように体制を整える必要がある。 	<p>11月18日（土）家庭教育講演会 「魔女おばさんの子育て」講師 有田道子氏</p> <p>12月16日（土）家庭教育講座 「子どもの成長と子育て」講師 社会教育指導員</p> <p>1月27日（土）家庭教育講座 「やる気を育てる」講師 柳田純子氏</p> <p>2月24日（土）家庭教育講座 「心を育てる」講師 塚原三千勝氏</p> <p>3月17日（土）家庭教育講座 「反抗期と親のイライラ期」講師 社会教育指導員</p>
<p>改善内容（課題解決に向けた解決策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師謝金の額を上げることによって、講座内容の幅が広がり、より多くの参加者を募ることが期待できる。 ・託児所を開設することにより、興味のある講座があれば気軽に参加できるようになる。 ・会場へ出向くことができない方にも参加してもらえるような出前講座の実施検討 	<p>次年度 5月中旬以降から月1回程度、家庭教育講座を開催予定</p>
<p>次年度のコストの方向性（→その理由）</p>	
<p>■増加 □維持 □削減</p>	<p>講師謝金については、近隣市町村の1回当たりの謝金の相場（取手市・利根町8,000円、つくば市7,000円）であるため、来年度は見直しをし、1回当たり8,000円で実施したい。もちろん、謝金が発生しない社会教育指導員及び指導室の指導主事を講座の講師として実施することは継続していく。</p>

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
家庭教育を学ぼうとする参加者の保護者の不安の解消や学校への期待などを払拭できるような講座内容を工夫する必要がある。	昨年度に引き続き、保幼小中高一貫関連の家庭教育講座を開催することができた。土曜日に講座を開催するなど保護者が参加しやすい事業の実施に努めたが、それでも、参加者（保護者）が集まらないといった課題を見出すことができたので、来年度以降の講座事業実施の際に検討する必要がある。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
家庭教育講座開催数（回）	6.00	11.00	11.00	11.00	11.00
家庭教育講座参加者数（人）	189.00	403.00	344.00	400.00	420.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	家庭教育を学ぼうとする保護者に対して学習の機会、子育てに関する悩みなどの解消の一助となる指導等を行うことであるが、今年度は、講座の開催日時の設定に課題があったため、見直しが必要である。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	家庭教育事業の推進のために、次年度は講師選びの際の工夫や講師謝金の値上げにより、参加者の興味を持ってもらえる講座を提供し、また、長期休暇中には親子で参加する講座や参加型講座の開催を計画していく。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	2,545	2,590	2,574	2,610	2,668
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,545	2,590	2,574	2,610	2,668
正職員人工数（時間数）		0.00	53.00	72.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	217	295	0	0
トータルコスト		2,545	2,807	2,869	2,610	2,668

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	市PTA連絡協議会支援事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和30年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-100401-09 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
各学校間のPTAの連携を図るために、昭和30年代にPTA連絡協議会活動が開始された。	定例会、研修会、校外指導等を行うに当たり補助を行う。指導者研修会は、PTA活動に関する課題解決や子育てに必要なスキル向上等、保護者のニーズを考慮した講演会を開催し、指導者の育成を図る。 平成28年度活動内容 ・校外指導及び巡視 ・定例会 ・PTA指導者研修会 ・PTA親睦球技大会 ・児童、生徒の見守り活動「753運動」の実施
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
研修会等を開催し、教育効果の向上と学校と家庭の連携を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
年1回中央公民館ホールで、単位PTAの役員等及び教職員を対象に、子どもを取り巻く課題や問題点をテーマに指導者研修会を実施しているが、参加者が少ない。 各単位PTAで参加者を募り、多くの会員が情報共有する必要がある。	通年 PTA活動に対する支援、情報提供
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
保護者として必要なスキルを取得できるテーマ及び内容とし、一般会員の参加についても検討するよう働きかける。 また、学校、家庭と地域が連携・協力する取組に関して、情報提供をする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	主に、指導者研修会に充てられる費用であり、最低限の予算のため予算削減の余地はない。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
市P連全体で連携を図り、役員だけでなく一般会員が興味を持って参加できる研修の実施や教育活動に取り組む。	「いじめ」をテーマに、他者とのより良い関係づくりに向けた研修会を行った。 一行詩のコンテストを取り入れ、研修会の冒頭に入賞者の表彰を行うなどの工夫により、例年より多くの一般会員が参加がした。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
定例会，研修会，校外指導の実施数（回）	23.00	23.00	23.00	23.00	23.00
参加した会員数（人）	500.00	660.00	660.00	700.00	780.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	主に，P T A会員向けの実施となるため，大きな成果向上は見られないが，家庭・学校・地域をつなぐ重要な担い手となる組織のため，継続して支援し，成果の維持を図る。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化， <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	単位P T Aの活動を市P連全体で共有し，特に，校外指導や広報発行の場面で良い方策や手法を考え単位P T Aにフィードバックするなど活動の活性化につなげる。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	164	154	154	154	154
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	164	154	154	154	154
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	0	0	0
トータルコスト		164	154	154	154	154

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	夕べのコンサート事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 8年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	実行委員会
予算科目コード	01-100401-10 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成8年当時、転入者が多く、まちに馴染みのない住民が多くいることから、町長から庁舎を活用したイベントの開催が提案され、市役所各課からアイデアを募集したところ、中庭やロビーを活用したコンサートの開催が採用された。	8月の土曜日の夕方（18時からおおむね21時）に、合計3回コンサートを開催する。舞台の設営や音響・照明は業者に委託するが、当日の受付や舞台配置などは、出演サークルが当番で行っている。また、市内在住や市出身などのプロが、各回1組出演する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民が日常的に芸術に親しみ、生きがいや楽しみを持って生活を送ることで、市に愛着を持ってもらう。（定住意欲を促進する）。 また、庁舎で開催することで、行政を身近に感じてもらい市に愛着を持ってもらう。さらにはプロと同じステージに出つことで、音楽サークルの活動意欲の向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
例年出演団体に変化がないため、新たな若い世代の団体の出演を増やす必要がある。 また、人気のあるプロ出演者の選択、夕べのコンサートの広報の仕方を検討し、観客の増員を図る必要がある。	2月上旬 第1回運営委員会 4月上旬 参加団体募集 5月上旬 ステージ作成業者入札 6月上旬 第2回運営委員会 7月中旬 実行委員会 実施予定日（3回） 8月5日 中庭 8月19日 庁舎内ロビー 8月26日 庁舎内ロビー 11月上旬 反省会
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
新たな出演団体について、守谷高校、協賛の企業に参加依頼の通知を送付する。 広報紙、市ホームページに掲載し、幅広く市民に知らせ、出演団体、観客の増員を図る。 また、近隣市町村へもポスター掲示を依頼する。 今回のアンケートに基づき、好評のプロの出演を依頼する。	

次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	音楽を気軽に楽しめるコンサートとして定着し、楽しみにしている市民も多いことから、来年度も観客動員数を維持、増員するためにも、司会者、プロ主演者謝金、屋外舞台設置委託料が必要である。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
前年度より、コスト削減や参加団体の減少により、開催数を4回から3回に変更した。これに伴い来場者の人数は多少減ったが、音楽を気軽に楽しめるコンサートとして毎年、楽しみにしている来場者も多い。	広報誌へ出演団体の参加募集を行った。 市内企業や守谷高校、市外のバンドに直接参加の呼びかけを行った。 また、実行委員会を開きプロの出演者を決定し、参加依頼を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
出演団体数（組）	17.00	15.00	18.00	18.00	16.00
来場者数（人）	844.00	549.00	676.00	750.00	750.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	出演団体数、観客数ともに、前年と比べれば多少は増えたが、ここ数年、猛暑や急な雷雨及び花火大会や夏祭りなどの行事が重複していることが影響している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	観客に対して、気軽にいろいろなジャンルの音楽を鑑賞できる機会を提供し、守谷市に住んでいる楽しみをつくる。 出演者に対して、日頃の練習の成果を発表する場を提供し、生きがいをつくる。また、アンケートで出演要望の多かった出演者に次回の出演を依頼する。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	1,363	1,341	1,299	1,394	1,394
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1,299	1,394	1,394
	一般財源	1,363	1,341	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	408.00	549.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,673	2,251	0	0
トータルコスト		1,363	3,014	3,550	1,394	1,394

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	もりや学びの里施設維持管理事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 8年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	
予算科目コード	01-100401-11 単独	根拠法令・条例等	もりや学びの里設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>旧大井沢小学校の廃校に伴い、その跡地を新たに生涯学習施設として利用することにより、平成8年度に「もりや学びの里」を開設した。</p>	<p>廃校施設を市民の学習施設としてサークル活動、研修等に活用し、より快適な利用に供するため、設備、機械等の管理及び保守点検を実施する。 [主要施設] 体育館/和室/講座研修室/音楽室/調理室/創作工芸室/バーベキュー施設 [主な施設管理業務] 建物清掃/自家用電気設備保安管理/自動ドア保守点検/体育器具点検/消防施設点検/植栽管理/施設管理等</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>世代を超えて利用できるコミュニティ施設として、市民が安全で快適な学習や趣味活動ができる環境を整え、社会教育活動の充実及び推進を図る。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>法定点検で指摘された事項は、都度、改善しなければならない。老朽化に伴う設備不良が毎年発生している。 施設管理業務についてはシルバー人材センターに業務委託しており、電球の球切れ、草木の繁茂等は常に確認され、管理者が整備を行うなどの対応が取られている。</p>	<p>平成29年10月 施設不良箇所調査 ・管理人（シルバー人材センターへ委託）にヒアリング ・現地確認 平成29年11月中旬 次年度修繕計画 平成30年度通年 施設維持管理（修繕含む） 平成30年 8月予定 建物定期調査実施（2年に1回） 平成30年 9月以降 定期調査不良箇所調査・修繕</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>施設・設備の不良箇所を調査・把握し、新年度予算計上時までには修繕の優先順位を付ける。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p><input type="checkbox"/>増加 <input checked="" type="checkbox"/>維持 <input type="checkbox"/>削減</p>	<p>施設の老朽化に伴い、維持管理に係る費用の確保が必須であるため、例年並の修繕費を計上する。</p>

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
利用者が安心・安全で快適に学習活動ができるよう、適切な施設整備を行う。	施設・設備の不具合による修繕を行った。 [内容] 身障者用トイレ交換、陶芸窯室排熱換気設備設置、郷土資料室改修、はん登棒撤去、シャワー室ストレーナー詰まり、点灯不良照明、トイレ建具交換、陶芸用電気窯上部排気栓、自動火災報知設備配線、バーベキュー施設流し台、体育館暗幕、体育館建具及び雨樋修繕

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
延べ利用者数（人）	33,090.00	32,546.00	33,708.00	30,000.00	30,000.00
施設の改善（修繕）件数（件）	8.00	9.00	11.00	8.00	8.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	陶芸窯や防音設備の整った音楽活動室、体育館、バーベキュー施設など他の施設にはない設備があり、市民の学習、趣味や余暇活動の場として、多くの団体・サークルに活用されている。今後も適切な施設の維持・管理を行い、サークル活動の支援と学習機会と場の提供を図る。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	利用者が安心・安全で快適に学習活動ができるよう、適切な施設整備を行う。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	15,527	12,495	13,201	17,528	17,528
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	717	811	927	4,693	4,693
	一般財源	14,810	11,684	12,274	12,835	12,835
正職員人工数（時間数）		0.00	230.00	364.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	943	1,492	0	0
トータルコスト		15,527	13,438	14,693	17,528	17,528

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	子ども会育成補助事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和31年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-100401-13 補助	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>子どもの健全育成に効果があると判断され、昭和31年に守谷市（当時守谷町）子ども会育成連合会が結成された。</p>	<p>守谷市子ども会育成連合会が実施する事業のための会場提供、広報掲載、事業参加募集受付、運営補助等の支援及び補助金交付を行う。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>子ども会活動を通し、子どもたちに集団活動のルールなどを身につけさせることができ、また、育成者（保護者）の関心を高め、「市民による健全育成活動の推進」に貢献する。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・守子連に加盟している単位子ども会の数が減少している中、守子連主催事業を開催しても、ワンパターン化しているため、参加する子どもたちが少ない。 ・指導者（保護者）向けの研修・講座を開催しても、参加者が少ない。 ・守子連役員が高齢化しつつ、事業企画に乏しい。 	<p>1月14日（日） 親子たこづくり教室・たこあげ大会開催 2月下旬 役員会開催 3月3日（土） 新単位会長会議・育成者初級講習会開催 次年度 4月上旬 役員会 4月中旬 平成30年度守子連総会 5月中旬 役員会 7月上旬 子ども交流フォーラム 9月上旬 役員会 10月下旬 子ども体験教室</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<ul style="list-style-type: none"> ・単位子ども会毎でも行事を開催しているが、守子連主催事業では、学校区を越えた子ども同士が交流できる機会であるため、より参加意欲が湧くような事業企画を検討する必要がある。 ・現在も単位子ども会役員の方々に当番制で、守子連主催事業の協力をしてもらっているため、引き続き継続する。 ・守子連役員については、総会時に単位子ども会役員の方々に勧誘する。 ・単位子ども会の加入促進については、広報回覧などで周知する。 	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	<p>県子連負担金及び市補助金のため、削減する余地はない。</p>

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
子ども会が成り立たない人数にまで減少している2地区の単位子ども会が守子連から脱会した。駅周辺の分譲地区やマンションでの子ども会の発足ができれば、守子連の活性化に繋がるため、守子連の活動PRをすることが必要である。	守子連役員で作成している「もりこれんの活動」と題した報告書を作成し、総会時に単位子ども会出席者に資料として配布した。また、担当課窓口にも配架し、守子連について興味のある子ども会からの問い合わせ等があれば、参考資料として配布し、加入促進に役立てた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
守子連登録子ども会数（団体）	35.00	34.00	32.00	32.00	32.00
守子連主催事業数（回）	6.00	6.00	6.00	6.00	6.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	今年度は、例年実施している守子連主催事業の2事業を1本化し、1日で開催する試みをした。その結果、参加者が例年以上に多くなり盛会に終えることができたので、次年度も同様に実施していく。しかし、年間を通して、参加者が少ない事業もあるので見直しが必要。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	守子連加入の子ども会組織が減少しつつある中、今年度は1団体の加入があった。例年同じ事業を実施しているが、マンネリ化しているため、当番制で単位子ども会の育成者（保護者）に事業運営協力をいただいているので、意見交換を行い、内容の見直しを図る。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	240	234	230	231	231
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	240	234	230	231	231
正職員人工数（時間数）		0.00	406.00	485.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,665	1,989	0	0
トータルコスト		240	1,899	2,219	231	231

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	成人式事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和39年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	実行委員会
予算科目コード	01-100401-22 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
国民的な行事で、多くの自治体で実施されていることから守谷市も昭和39年度から実施している。	新成人者で運営協力委員会を組織して、成人式の運営や準備を行政と協働で進める。 〔実施日〕平成30年1月7日（日）実施 〔該当者〕平成9年4月2日～平成10年4月1日生まれの方 参考：平成29年成人式典 該当者数681人，内出席者数501人
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
新成人者を対象に、人生の節目を記念して成人式を実施し、次代の担い手として今後の活躍を願い祝福する。新成人による運営委員会を組織し、成人式典を開催する。祝福を受けることで、成人としての自覚を持ってもらう。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<ul style="list-style-type: none"> 例年、新成人による運営協力委員会を組織し、成人式典を開催しているが、予定どおりに委員が集まらない。周知方法を検討する必要がある。 手話通訳者が必要なのではないかという声がある。 	<p>6月に市内中学校長へ運営協力員の推薦依頼を行い、学校推薦者に運営協力員の依頼を行う。広報やホームページでも運営協力員の募集を行う。早い時期に運営協力員を決定することで、運営協力員会議も10月頃から12月まで5・6回は開催できるので、成人式典の準備もスムーズに行える。</p> <p>（平成30年成人式典 11月1日現在対象者数 666人） （平成30年成人式運営協力員数 35人）</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>例年同様に、中学校等の協力を得ることだけでなく、SNS等でも委員を募ったり、予定期間中に集まった委員から声を掛けるなどの方法で、当日の運営に支障が出ない人数を募る。</p> <p>国民的な行事であり、多くの自治体でも実施されていることから、今後も現状を維持し、なるべく多くの新成人者に参加してもらうように、新成人者で運営協力委員会を組織し、行政と協働で準備、運営を進めていく。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	<p>守谷市を担っていく市民として期待できる若者の成人を祝う大事な式であり、成人式を開催することが目的であるため、事業を維持していく。</p> <p>手話通訳者謝金を計上する。</p>

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度を取組（評価、課題への対応）
各中学校への運営協力員推薦依頼時に対象要件の拡大を図る。（生徒会役員・部活動主将など。） 運営協力員募集の際に、広報やホームページに加えて、SNSを活用する。	各中学校への運営協力員推薦依頼時に対象要件の拡大を図り、多数の協力を得ることができたので、引き続き次年度以降も依頼したい。運営協力員募集では、運営協力員同志の繋がりでSNSを活用して協力を得ることが出来た。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
新成人に対する参加者の割合（％）	70.00	73.56	70.85	70.00	70.00
式典参加者数（人）	473.00	501.00	508.00	493.00	493.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	毎年、新成人者の7割が参加している。成果は上がっており、成人式を開催することが目的であることからこれ以上の成果の余地はない。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	守谷を担っていく市民として期待できる若者の成人を祝う大事な式であり、成人式を開催することが目的であるため、事業を維持していく。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	714	666	770	812	812
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	714	666	770	812	812
正職員人工数（時間数）		0.00	368.00	415.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,509	1,702	0	0
トータルコスト		714	2,175	2,472	812	812

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	公民館運営管理事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和56年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	
予算科目コード	01-100404-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市立公民館の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>市民のコミュニケーション及び生涯学習の場を提供するため開館した。 昭和56年 中央公民館開館, 平成4年 郷州公民館開館, 平成8年 高野公民館開館, 平成11年 北守谷公民館開館</p>	<p>市民サービスの向上を図るために、平成24年度から指定管理者による運営を開始した。 [指定管理者] アクティオ株式会社・守谷市シルバー人材センター共同事業体 [今期指定期間] 平成27年4月1日～平成32年3月31日 5年間 [指定事業] 各館年間10講座以上、公民館まつり1回 [自主事業] 指定管理者の自己の責任と費用により、実施することができる事業</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が安全で快適な学習活動ができる場所を提供する。 ・指定管理者による管理・運営により、市民ニーズに効果的、効率的に対応し、民間の能力活用とサービス向上を図る。 	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・法定点検で指摘された事項は、その都度、改善しなければならない。中央公民館は次年度以降に大規模改修を予定しているが、他3館においても老朽化に伴う設備不良が年々増加しているため、全体的な修繕計画を立てる必要がある。 ・指定管理者による管理・運営に対する適切な評価、また、更なるサービス向上を図るため、市が利用者の声を聴き、現状を把握する必要がある。 	<p>平成29年10月 施設不良箇所調査 ・公民館長にヒアリング ・現地確認</p> <p>平成29年11月中旬 次年度修繕計画（優先順位決定） 平成30年2月 利用者アンケート実施 平成30年3月末 アンケートまとめ 平成30年6月末 平成29年度指定管理者評価完了 平成30年度通年 計画的な施設維持管理（修繕含む）</p> <p>【中央公民館改修事業】 平成29年10月～平成30年8月 実施設計 平成30年10月～平成31年9月 改修工事</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<ul style="list-style-type: none"> ・各公民館における施設・設備の不良箇所を調査・把握し、新年度予算計上時まで、修繕の優先順位を付ける。 ・窓口での使用受付時や公民館まつりの機会に利用者アンケートを行い、次年度6月までには指定管理者に対する評価を行う。 	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	<p>指定管理者の運営による市民サービスを継続する必要がある。 施設の老朽化に伴い、維持管理に係る費用の確保が必須であるため、維持管理費については、例年並の修繕費を計上する。 中央公民館の改修工事に伴い、工事費及び実施設計の費用が発生するため、改修工事を含めると、コストは大きく増加する。（平成30年度～31年度「中央公民館改修事業」として別途計上）</p>

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
指定管理者と公民館運営協力員，サークル代表者，地域住民が連携・協力して講座，イベント等を作り上げる体制を継続させる。 老朽化している施設を計画的に修繕する。	公民館運営協力員会議の他に，講座検討会議や公民館まつり実行委員会を組織し，地域と公民館のつながりを強化した。 各公民館における施設・設備の不良箇所を計画的に修繕し，機能改善を図った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
延べ利用者数（4館）（人）	203,184.00	209,343.00	207,315.00	208,866.00	208,866.00
施設の改善（修繕）件数（件）	11.00	25.00	35.00	27.00	25.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	指定管理者の提案で，市民提案型講座やサークル応援事業を実施し，高齢化等により定期サークルの規定（10人以上）に満たないサークルの救済として，公民館とサークルが協働で講座を開催し，新規会員の獲得や活動の継続につながった。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	指定管理者と公民館運営協力員，サークル代表者，地域住民が連携・協力して講座，イベント等を作り上げる体制を継続させる。 老朽化している施設を計画的に修繕する。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	54,288	57,351	119,593	122,996	122,996
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	677	548	7,967	14,654	14,654
	一般財源	53,611	56,803	111,626	108,342	108,342
正職員人工数（時間数）		0.00	217.00	940.00	0.00	940.00
正職員人件費		0	890	3,854	0	0
トータルコスト		54,288	58,241	123,447	122,996	122,996

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	大野地区公民館運営事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和33年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	事業協力
予算科目コード	01-100404-07 単独	根拠法令・条例等	守谷市立公民館の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民にコミュニケーション及び生涯学習の場を提供するため、昭和33年に大野地区公民館が開館した。	地域住民の生涯学習の場として、公民館運営協力員の協力により、講座・教室・地域のイベントを行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
地域住民が生涯学習活動に参加する機会を設け、参加者の学習意欲の向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
現在、各生涯学習サークルや地域福祉の活動のために地域住民が定期的に利用している。しかし、建物が古いため、バリアフリーなどに対応できていない部分もある。	引き続き、今後も地域住民に、コミュニティ・生涯学習の場の提供を行っていく。また、館長及び利用者から施設の不具合などの連絡があれば、その都度対応していく。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
公民館の建物が古いですが、現在のところ大規模工事を行うといった事案は出ていない。軽微な不具合については、その都度、早急に対応していく。 また、今年度は、利用者の駐車場のスペースが少ないことから、運営協力員の計らいで、公民館近くの土地を所有者から無償で借用することができ、駐車場の確保ができた。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	運営協力員の運営で行っている事業であり、施設維持管理の経費については最少限の経費を計上しているため削減の余地はない。 講堂で、活動中に暖を取れるよう暖房器具を購入する。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
公民館運営協力員企画の講座・教室を計画どおり実施することができた。	例年夏に開催している「大野ふれあいまつり」で急遽、大野地区敬老会行事を同時開催した。敬老行事には140名の参加者があった。敬老行事には、市助成金「敬老会行事助成金交付金制度」を活用した。来年度以降については、運営協力員会議で検討する必要がある。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
開催教室・イベント数（件）	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00
参加者数（人）	700.00	742.00	680.00	690.00	700.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	大野地区に限定した事業展開を行っており、施設の規模や老朽化の問題もあり、これ以上の向上は見込めない。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	公民館運営協力員の企画により、参加者の受益者負担での講座・教室の実施を継続する。また、建物の老朽化の問題もあるが、定期利用団体も活発に活動しているので、大規模な改修はしないが、修繕や備品の購入などを行う必要がある。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	690	352	226	285	285
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	22	0	0	0	0
	一般財源	668	352	226	285	285
正職員人工数（時間数）		0.00	290.00	122.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,189	500	0	0
トータルコスト		690	1,541	726	285	285

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	図書館運営管理事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 7年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	
予算科目コード	01-100405-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市図書館等の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成7年5月に守谷中央図書館が開館し、事業を開始した。	市民の様々な学習要求に応えるため、指定管理者制度を導入して市民サービスを向上させるとともに、市民一人当たり500円を目安に図書資料費を確保し、幼児から成人までの市民の要望に応じた幅広い資料の収集に努める。 また、図書館ネットワークを活用した図書の貸出、返却、予約、リクエスト、レファレンスなど質の高いサービスの提供を行う。 [指定管理者] 図書館流通センター・常総ビル整美共同事業体 [今期指定期間] 平成28年4月1日～平成31年3月31日 3年間
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民の文化教養の向上を目指し、自由で公平な資料提供を中心とする図書館活動により、文化の発展に資する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
開館から23年目が経過し、設備の老朽化が目立ち始めているため、優先順位を付けて修繕等を実施し、市民の安全で快適な利用環境の整備に努める必要がある。	平成29年10月 施設不良箇所調査 ・図書館長にヒアリング ・現地確認 ・建物診断報告書及び点検報告書等確認 平成29年11月中旬 次年度修繕計画（優先順位決定） 平成30年度通年 計画的な施設維持管理（修繕含む）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
H28年度に建物調査診断（委託業務）を実施し、劣化状態や不具合内容を把握した。これにより、適切な修繕等を実施するに当たり、修繕・改修計画のベースとしている。 また、各種点検業務等の報告書をチェックすることで、施設・設備の不良箇所を把握し、新年度予算計上時までには、修繕の優先順位を付ける。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	施設の老朽化に伴い、維持管理に係る費用の確保が必須であるため、不良箇所の修繕費を計上する。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
<p>設備の老朽化が目立ち始めている。平成28年度に実施した建物調査診断（委託業務）の結果を基に、優先順位を付けて修繕等を実施する必要がある。</p> <p>平成28年4月から指定管理者による図書館運営を開始したが、年度当初にスタッフの退職が相次ぎ、運営体制が不安定な時期が続いた。そのため、図書館グループ職員による指導、監督を強化する必要がある。また、資料の選定については、図書館グループのチェックを継続することにより、市民の求める資料の提供に努める必要がある。</p>	<p>指定管理者との連携を密にし、施設の不良箇所を把握し、迅速な修繕に努めた。</p> <p>指定管理者の運営評価を行うに当たり、市のモニタリング書式「指定管理者総合評価シート」によるプレ評価を実施するとともに、図書館独自の評価項目を加えた「指定管理者総合評価追加項目シート」を作成して評価を実施した。評価結果を指定管理者と共有し、課題等の把握に努めた。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
蔵書数（点）	425,097.00	443,362.00	454,596.00	455,000.00	455,000.00
総貸出し数（点）	864,539.00	952,042.00	985,864.00	985,860.00	985,860.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	施設の不良箇所の迅速な修繕に努め、利用者に快適な利用環境を提供した。市民一人当たり500円を目安に図書資料費が確保された上で、開館日、開館時間の拡張による利用者、貸出冊数の増加があった。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	設備の老朽化に対応するため、今後も計画的な修繕を継続する必要がある。今後も市民一人当たり500円を目安に図書資料費を確保し、市民の求める資料の提供に努める。開館日、開館時間については、費用対効果を鑑み現状維持とする。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	42,291	189,814	183,836	187,422	147,771
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	132	1	1	1	132
	一般財源	42,159	189,813	183,835	187,421	147,639
正職員人工数（時間数）		0.00	3,091.00	2,519.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	12,673	10,328	0	0
トータルコスト		42,291	202,487	194,164	187,422	147,771

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	図書館協議会開催事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 7年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	法定事務
	基本事業	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供	市民協働	企画立案への参画
予算科目コード	01-100405-07 単独	根拠法令・条例等	図書館法 守谷市図書館協議会設置条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
守谷市立図書館の適正な運営を図るため、平成7年度に設置した。	年3回会議を開催し、図書館の運営全般について、利用者目線での意見などを聴き、図書館サービスの向上につなげる。 また、指定管理者による図書館運営のチェック機能を担う。 会議開催時には、出席委員に報酬及び費用弁償を支払う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
図書館の運営について、利用者及び関係団体の意見を伺い、より良い図書館運営に資する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
守谷市立図書館の第1期の指定管理期間が平成30年度で満了することに伴い、第三者評価機関としての役割を担うことになった。守谷市教育委員会から、「守谷市立図書館等の運営に対する評価について」「守谷市立図書館等の平成31年度からの運営体制について」の2点が諮問された。	平成29年12月下旬 第5回図書館協議会開催 ・図書館等の評価について討議 ・「運営基本方針」についての意見聴取 平成30年1月中旬 第6回図書館協議会開催 ・図書館等の評価について討議→まとめ ・「運営基本方針」（案）のまとめ 平成30年2月中旬 第7回図書館協議会開催 ・「図書館等評価」完成版報告 ・「運営基本方針」完成版報告 ・ 答申書受理 平成30年5月下旬 第1回図書館協議会開催 ・平成29年度実績報告 平成30年7月中旬 第2回図書館協議会開催 ・平成29年度評価のまとめ 平成30年11月中旬 第3回図書館協議会開催 ・視察研修 平成31年1月下旬 第4回図書館協議会開催 ・平成29年度評価のまとめ 平成31年2月中旬 第5回図書館協議会開催 ・平成31年度運営方針説明
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
当初は、諮問を想定していなかったため、答申をまとめるために必要な会議開催の予算措置がなかった。そのため、補正等に対応する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	平成31年度からの運営体制を問わず、図書館運営の評価を行うことが、図書館協議会の任務として課せられたため、年度当初に対し、会議2回分の増加を希望する。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度を取組（評価、課題への対応）
平成28年4月から指定管理者による図書館運営を開始したが、年度当初にスタッフの退職が相次ぎ、運営体制が不安定な時期が続いた。そのため、これまで以上に図書館運営に対して注視し、評価を実施する必要がある。	守谷市教育委員会から、「守谷市立図書館等の運営に対する評価について」及び「守谷市立図書館等の平成31年度からの運営体制について」の2点が諮問された。年度当初3回の開催予定だったが、全7回（会議6回、先進地視察1回）を実施し、2月15日に「答申書」及び「守谷市立図書館等業務評価報告書」を教育委員会に提出した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
図書館協議会委員数（人）	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
会議開催数（回）	7.00	4.00	7.00	5.00	5.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	指定管理者による図書館運営の第三者評価機関としての役割を担い、「守谷市立図書館等業務評価報告書」を作成した。また、守谷市教育委員会から、「守谷市立図書館等の運営に対する評価について」及び「守谷市立図書館等の平成31年度からの運営体制について」の諮問を受け、2月15日に「答申書」及び「守谷市立図書館等業務評価報告書」を教育委員会に提出した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	指定管理者による図書館運営の第三者評価機関としての役割を果たすため、会議開催数を増加して対応する。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	138	139	331	307	285
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	138	139	331	307	285
正職員人工数（時間数）		0.00	244.00	676.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,000	2,772	0	0
トータルコスト		138	1,139	3,103	307	285